

「沖縄の母に感謝」

川上選手 夢つかみ笑顔

ヤクルト 1位指名



「夢」への切符つかんだ。27日のプロ野球ドラフト会議で、セ・リーグのヤクルトから1位指名を受けた光星高(八戸市)の川上竜平外野手(21)。プロ入りという目標を掲げ、遠く沖縄県から八戸の高校に進み、努力を重ねてきた。「母に感謝を伝えたい」と3年前の頃から同じ夢を描いてきた母道子さん(46)への思いを口に。チームメイトからは「本人の努力が実った」「目よく活躍する姿を見たい」との祝福が贈られた。

仲間も祝福「努力実った」

午後5時、同校の図書室には、川上外野手や仲井宗基監督(44)、硬式野球部員らが集まり、同睡(かたず)のみながらドラフトのテレビ中継を見守った。12球団の1位指名で川上外野手の名は挙がらなかったが、競合で1位を外した5球団が再度入札。5番目のヤクルトが川上外野手を指名すると、会場は歓声で沸きに沸いた。プロ野球入りは那覇市の仲井真小2年で野球を始めた頃から、道子さんとの共通の目標だった。光星高を選ん

チームメイトから胴上げで祝福される川上竜平外野手(27日午後5時50分ごろ、八戸市の光星高)

だのは、プロ入りへの近道と信じたからだ。ドラフト当日の朝、道子さん(46)から「緊張で眠れなかった」とメールが来たという。川上外野手は「神に祈るのみ」と返信したというが、「指名を待っている間は、心臓がぼくぼくした」と明かした。夢をたぐり寄せるヤクルトからの指名。川上外野手は「離れていても、母とは二人三脚でやってきた。まず、母に感謝したい」と顔をほころぼせた。

一方、チームメイトは、同校中庭で川上外野手を胴上げし、喜びを爆発させた。3年の松本憲信君(21)は「1位で指名が来た瞬間は、鳥肌が立

った。自分のごとくようにうれしい。3年の前原文稀君(21)は「川上は人の何倍も努力し、絶対に満足しない男。きっとプロでも活躍してくれる」と期待を込めた。

川上外野手と同様、プロ入りを目指すチームメイトにとっては、刺激になった様子。今夏の甲子園準優勝投手で、社会人野球へ進む3年秋田教良君(21)は「自分も負けないくらい練習して力を付け、いつかプロで対戦したい」と、一歩先行く仲間を追い掛ける。

川上外野手の跡を継ぎ、主将を務める田村龍弘君(21)は、早くも来年のドラフト候補と

目されている一人。自分も先輩に続けた。「プロの世界が身近にきたい」と目を輝かせ感じられ、希望をもらった。